

平成22年度 校内研修等についての調査結果概要

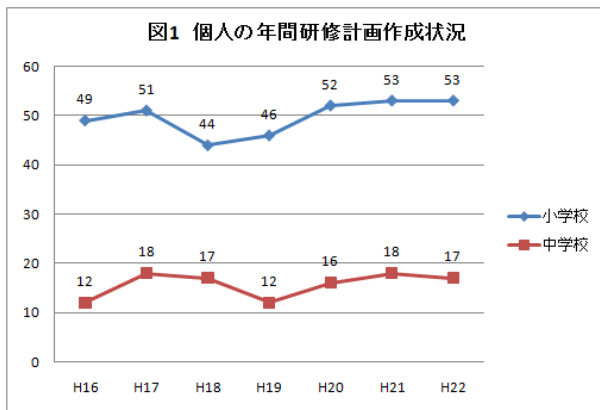
平成23年2月 金沢市教育プラザ富樫 研修相談センター

1月に実施した、「平成22年度 研修についての調査」の結果について、特徴的なものについて概要を掲載します。平成16年度から7年間の動向についても比較しています。

1. 個人の年間研修計画の作成状況(図1)

個人の年間研修計画を作成している学校は、小学校で88.3%、中学校で70.8%となった。小・中学校ともに、年間研修計画の作成は3年間横ばい傾向にある。また、目標管理を個人計画に代えている学校が3校あった。

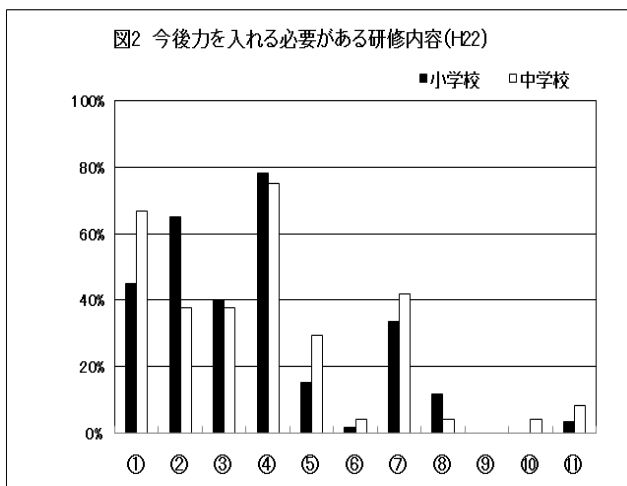
- 小学校 53校(H21) → 53校(H22)
- 中学校 18校(H21) → 17校(H22)



2. 今後の校内研修で力を入れる必要がある内容(図2)

今後の研修で特に力を入れる必要がある内容については、小・中とも「教科指導の研修」が多くなっている。

小学校では、「評価・定着状況等の研修」が増加している。また「児童生徒理解の研修」は減少しているが、「生徒指導の研修」が増加している。中学校では、「総合的な学習の研修」が大きく増加しており、「生徒指導の研修」が減少している。「道徳指導の研修」については、小学校では年々増加しているが、中学校では年々減少している。

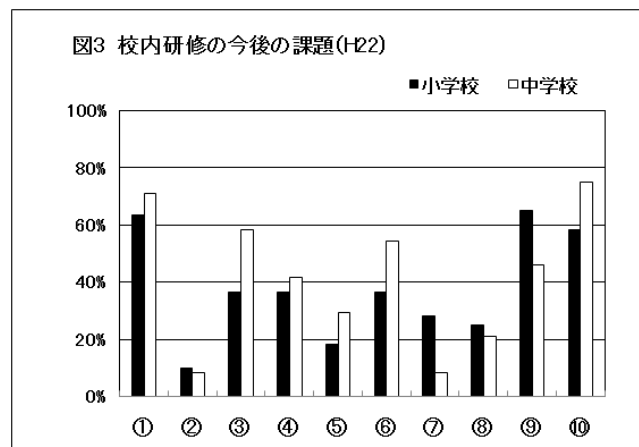


- ① 児童生徒の実態など児童生徒理解に関わる研修を進める。
- ② 評価・定着状況等についての研修を進める。
- ③ 新学習指導要領についての研修を進める。
- ④ 教科指導の研修を進める。
- ⑤ 道徳指導に関する研修を進める。
- ⑥ 特別活動指導に関する研修を進める。
- ⑦ 総合的な学習に関する研修を進める。
- ⑧ 生徒指導に関する研修を進める。
- ⑨ 進路指導に関する研修を進める。
- ⑩ コンピュータ活用に関する研修を進める。
- ⑪ 人権教育や環境教育など今日的課題の研修を進める。

3. 校内研修の今後の課題(図3)

小学校では「互いの実践について公開しあう」が増加し、「学校運営に研修成果を生かす」が減少している。中学校では、「配慮を要する児童生徒の理解」「個人の研修目的と一致する工夫」が大きく増加している

また、小・中とも「校内研修意欲が高まる工夫」が年々増加している。



- ① 互いの実践について公開し合う。
- ② 児童生徒や保護者などからの評価を受ける。
- ③ 配慮を要する児童生徒等について理解を進める。
- ④ 学校運営に研修(研究)成果を生かす。
- ⑤ 個人の研修目的と一致するように工夫する。
- ⑥ 校外研修の成果が校内研修に反映されるようにする。
- ⑦ 講師の依頼や職員用図書購入などの費用の補助等。
- ⑧ 校内研修を計画的に行う。
- ⑨ 校内研修の時間を確保する。
- ⑩ 校内研修意欲が高まるよう工夫する。

4. 校内研修を活性化するための工夫

各学校の工夫として、研究授業の日以外に、お互いの授業を自由に見て交流する日や期間を設定している学校が増えている。

また、自校の職員を講師とした研修や、若手を育成する研修などのような OJT を意識した研修が、小学校では32%で実施されている。研修の内容も、事前にアンケートをとり、職員のニーズに合わせたテーマを設定するなど、研修の活性化に向けた工夫を行っている。